

経営概要書

法人名：

株式会社 マリーナ秋田

(株13)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 米沢 正	所管部課名	建設部港湾空港課	
所在地	秋田市飯島字堀川 118	設立年月日	平成6年11月1日	
電話番号	018-847-1851	ホームページ	http://www.marinaakita.co.jp/	
主な出資 (出捐)者	出資(出捐)者名		出資(出捐)額(千円)	出資(出捐)比率(%)
	秋田県		13,000	26.0%
	ヤマハ発動機(株)		12,500	25.0%
	秋田市		7,800	15.6%
	その他2市7団体		16,700	33.4%
		合計	50,000	100.0%
設立目的	(1) 港湾及び河川・海岸の放置艇の集約を図り秩序ある水域利用を行う。(2) 海洋スポーツ・レクリエーションの普及・振興を図る。(3) 観光及び教育等、地域活性化に寄与する。以上を目的に県等の出資により平成6年11月に設立された。			
事業概要	(1) マリーナの管理(指定管理者) (2) 船舶用燃料、マリン用品の販売 (3) 船舶修理業、レンタルボート事業 (4) イベント、会議等の企画運営業務他			
事業に関連する法令、県計画				

2 令和元年度事業実績

新規の専用入艇数は目標34艇に対して実績25艇、県施設使用料は計画比99.5%だったが、稼働が良く出港数が伸び、燃料などの自主事業売上は計画比109.4%、売上合計では実績107,744千円、計画比103.9%となった。一般管理経費は増加して計画比101.2%となったが、最終損益は営業利益2,451千円、計画比102.7%、経常利益2,505千円、計画比103.2%となって当期利益1,421千円を確保した。

<事業目標>

項目	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
専用入艇数(隻)	目標	396	402	394	386
	実績	388	389	377	-
出艇回数(回)	目標	6,500	6,300	6,300	7,500
	実績	5,991	6,154	7,269	-
顧客満足度指数	目標	68	69	70	70
	実績	67.5	69.2	64.6	-

3 組織

①役員数(R2.7.1現在) (単位:人)

区分	取締役		監査役		役員報酬
	R1	R2	R1	R2	
常勤	1	1			支給対象者 (R1年度) 2人
内、県退職者					
内、県職員					平均年齢 67歳
非常勤	7	7	1	1	
内、県退職者	2	2			平均報酬年額 (R1年度) 3,851千円
内、県職員	1	1			
計	8	8	1	1	
内、県関係者	3	3			

②職員数(R2.4.1現在) (単位:人)

区分	R1	R2	正職員
内、県退職者	8	8	
出向職員			
内、県職員			平均勤続年数 13.9年
臨時・嘱託	8	8	
内、県退職者	1	1	平均年収 (R1年度) 4,033千円
計	16	16	
内、県関係者	1	1	

③取締役会回数

平成30年度	6	令和元年度	5
--------	---	-------	---

4 財務

①損益計算書 (単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度
売上高	104,597	107,744
売上原価	21,872	23,771
売上総利益	82,725	83,973
販売費及び一般管理費	80,113	81,522
人件費(売上原価含む)	59,507	61,463
営業利益(損失)	2,612	2,451
営業外収益	130	54
営業外費用	5	
経常利益(損失)	2,737	2,505
特別利益	120	120
特別損失		
法人税、住民税・事業税	1,479	1,204
当期純利益(損失)	1,378	1,421

②貸借対照表 (単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度
流動資産	133,551	134,527
固定資産	16,386	15,563
資産計	149,937	150,090
流動負債	73,209	71,189
短期借入金		
固定負債	9,644	10,396
長期借入金		
負債計	82,853	81,585
資本金	50,000	50,000
利益剰余金等	17,084	18,505
純資産計	67,084	68,505
負債・純資産計	149,937	150,090

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

退職給与引当状況	(単位:千円)		
	要支給額	引当額	引当率(%)
	10,395	10,395	100.0%

<主な経営指標>

項目	算式	平成30年度	令和元年度	増減※
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	102.7%	102.4%	△0.3
流動比率	流動資産÷流動負債×100	182.4%	189.0%	6.5
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	44.7%	45.6%	0.9
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

5 県の財政的関与の状況 (単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出			
補助金			
委託費			
指定管理料			
年度末残高			
貸付金			
損失補償			
その他の財政支出(基金等)			

I 自己評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 河川等の放置艇の集約、利用者への水域利用の法令・マナー遵守の啓蒙、一般県民への親水イベントの参加機会の提供など、公共施設としての役割を果たしている。	A 業務遂行に必要な常勤役員を配置している。また、各マリーナの体制については、社員の資格保有状況等を考慮しながら適切に配置している。	B 船舶免許取得希望者への体験乗船や釣具店との連携によるポートフィッシング愛好者の釣行体験を実施した。また、釣り雑誌やケーブルテレビへの取材協力などにより、利用拡大の情報発信を行った。	A 人口減少などの影響により専用入艇数の目標は達成できなかったが、出港数や自主事業売上が増加したことにより当期純利益を確保し、6期連続の黒字経営となった。

II 所管課評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 港湾及び河川等の放置艇の集約により、秩序ある水域利用に寄与しており、公共施設としての役割を果たしている。	A 業務遂行のために必要な常勤役員や職員を配置し、適切な組織体制を構築している。	B 専用入艇数は減少傾向にあるが、ほぼ横ばいで推移している。また、出港数は増加しており、概ね目標を達成している。	A 当期純利益の黒字を確保し、6期連続での黒字経営となっている。

III 外部専門家のコメント

売上高のうち、県施設使用料売上はほぼ前年と同額であったが、自主事業売上が伸びたことにより増収となった。また利用者稼働状況に関しては、出艇回数が目標値を大幅に上回ることができた。結果的に当年度もほぼ前年並みの利益を確保することができ、黒字体質を維持・継続している。年間の売上高を超える資金を有しているため、資金繰りには余裕がある。純資産も徐々に増えてきており、経営も安定してきている。

IV 委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 三セクの行動計画上は、「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられているが、公の施設の管理者として一定の公的役割を担っている。	A 常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。	B 出艇回数は目標を上回った。専用入艇数、顧客満足度指数は未達となったものの、目標値の90%以上の水準に達している。引き続き、事業の基盤である入艇数の確保に向けた取組が求められる。	A 6期連続で黒字を確保し、剰余金も増えてきており、経営は安定してきている。

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	B	4 財務状況	B
---------	---	--------	---	--------	---	--------	---

評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた取組（概要）

- ・マリーナへの関心を持ってもらい新規入艇数の確保に繋げるための取組として、免許事業者、船艇販売業者及びフィッシング業界と連携を図り、船舶免許取得者を対象としたキャンペーン等を実施した。
- ・長期に渡ってマリーナ利用を見込める40代以下の世代をターゲットに、人気の高いゲームフィッシングの紹介に努めた。